

とやま 21 世紀水ビジョン推進会議 健全な水循環系専門委員会報告書の概要

平成 17 年 3 月

水に関わる各種施策を総合的に推進する指針として、平成 3 年 3 月に策定した現行の「とやま 21 世紀水ビジョン」は、策定から 13 年余経過し、この間、地球的規模の水環境問題の進行（地球温暖化、酸性雨）や環境意識の高まりなど、水を取り巻く諸情勢が大きく変化してきたことから、平成 17 年度に新しい水ビジョンの策定を予定している。

このため、とやま 21 世紀水ビジョン推進会議に専門委員会を設置し、策定に向けての検討を進めてきたところであり、これまで平成 14 年度には「地球温暖化専門委員会」と「水文化、水と暮らし専門委員会」を、さらに、平成 15、16 年度の 2 ヶ年で「健全な水循環系専門委員会」を設置し検討をいただいたところである。

「健全な水循環系専門委員会」では、水資源、治水・利水、水環境等の幅広い視点から、「人間の諸活動と水循環系との調和」に向けた施策の基本的方向等について検討をいただき、このたびその報告書を取りまとめた。

1 委員構成

	氏名	所属及び役職名
委員長	田中 晋	富山大学教育学部教授
委員	楠井 隆史	富山県立大学短期大学部教授
〃	清水 晃	独立行政法人森林総合研究所水保全研究室長
〃	高木美奈子	富山県自然解説員
〃	瀧本 裕士	富山県立大学短期大学部助教授
〃	永井 隆	NEC トーキン富山株式会社経営管理部長
〃	永山 功	独立行政法人土木研究所水工研究グループ長
〃	藤縄 克之	信州大学工学部教授
〃	目黒 信雄	国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所副所長
〃	吉田 等	国土交通省土地・水資源局水資源部水資源調査室長
顧問	池淵 周一	京都大学防災研究所教授
〃	榎根 勇	筑波大学名誉教授
〃	長井 眞隆	元富山大学教授

2 審議事項等

	開催日	議 題
第 1 回	平成 15 年 12 月 19 日	富山県における水循環系の現状
第 2 回	平成 16 年 2 月 25 日	富山県における水循環系の現状と課題
第 3 回	平成 16 年 10 月 29 日	富山県における健全な水循環系の施策の方向性
第 4 回	平成 17 年 2 月 23 日	新・水ビジョン基本フレーム(素案) 健全な水循環系専門委員会報告書(案)

3 報告書の概要

「健全な水循環系専門委員会報告書の概要」は別紙のとおり

「健全な水循環系専門委員会報告書の概要」

1 富山県の現状

本県の水循環系の現状を把握するため、流域ごとの地勢や水の流れを整理するとともに、社会環境、水利用、水量や水質、自然環境等の変化について、調査・整理を行った。

その主な特徴としては以下のとおりである。

- ・ 県土の三方が 3000m 級の北アルプスや飛騨山脈等の山々に囲まれており 67%が森林である。
- ・ 全国有数の急流河川が典型的な扇状地平野を形成し富山湾に注いでいる。
- ・ 宅地の増加と農用地の減少が著しく、水田面積は過去 30 年間に 24%減少している。
- ・ 治水・利水施設として主要 7 河川にダム 57 ヶ所、頭首工 17 ヶ所が設置されている。
- ・ 水利用の約 9 割が農業用水であり、平野部に水路が網の目状に配置されている。
- ・ 河川水質は環境基準を達成しているが、都市型水害や局所的な浸水被害が生じている。
- ・ 水利用のうち地下水利用率は約 4 %であるが、冬期間の地下水位低下が生じている。

2 富山県における水循環系の課題と施策の方向性

～ 13 の主要課題とその施策の方向性 ～

課 題		施策の方向性
1	都市型水害、浸水被害の増大	総合的な治水対策の推進 各市町村の緊急浸水対策計画の策定 洪水ハザードマップ作成促進 浸透・貯留施設の整備強化 水害情報の収集・伝達システムの確立 集中豪雨の対応策の検討 地域水防力の強化と防災意識の向上 地下空間への浸水対応の確立
2	河川の水利用に伴う減水（無水）区間の発生	河川維持流量の確保 （ダムの弾力的な運用等、流域調整会議等の活用） 水利用の適正な管理
3	流域一貫の土砂管理の必要性	水系一貫の土砂管理（総合的な土砂管理） モニタリングの推進 河川、溪流の連続性の確保 既存ダムの土砂排出システムの検討・整備
4	地下水位の低下	地下水の適正揚水量の確認 地下水涵養手法の検討 地下水の公共財（公水）としての位置付け等の検討 冬期間の地下水位低下の対策
5	農業用水の果たしている地域用水の位置付け	地域用水機能の活用 地域用水としての維持管理のあり方の検討
6	ダム貯水容量の有効活用	ダム容量の見直し等 （既存ダムの再開発や用途間転用の検討） ダムの弾力的管理・運用
7	新たな水質問題の発生（ダイオキシン、内分泌攪乱化学物質等）	排水規制の実効性の向上、下水道放流水質の見直し 化学物質排出把握管理促進法の実効性の向上 水質異常の監視

8	生態系に配慮した河川、水辺の再生（魚道整備、外来種による攪乱等）	横断構造物等の影響の低減 （河川維持流量の確保、魚道整備等） 多自然型川づくり（川の再自然化）の推進 外来種対策の推進
9	森林による保水機能の維持	森林の水源涵養機能の解明 上流・下流の住民交流と森林の育成 （森林の保全を目的とした税導入等の調査検討）
10	世界の水問題と日本（富山）の役割	水の海外依存の改善 水循環に関する情報ネットワークの構築 世界的な水問題への協力 （富山からの有益な情報発信）
11	酸性雨	大気汚染の防止 実態把握 国際協力の推進
12	温暖化に伴う春季の河川流量ピークの変化（かんがい用水不足等）	少雪化、融雪時期の早まりへの対応 （モニタリングの継続、用水不足対策の検討） 温室効果ガス排出量の削減
13	水文化の喪失	水文化の継承と育成 （利水・治水等の伝統技術、伝統的地場産業、暮らしに生きる水文化等） 交流・啓発活動 （水環境や水文化に関する学術振興、地域交流・連携、ボランティア活動等）

3 新・水ビジョンの基本フレーム（素案）

（アンダーラインは新しい項目）

健全な水循環系の構築

○ 水源対策

・森林の保全 ・水源山地等の保全 ・地下水の保全と涵養

○ 治水・利水対策

・治水対策の推進 ・利水対策の推進 ・用途間転用の推進

○ 水環境対策

・水質汚濁の防止 ・下水処理の促進と再利用 ・水環境の保全と利用の調和

水文化の継承と発展

・水に関する歴史風土と水文化の継承 ・水を通じた交流と連携

・水辺景観の保全と創出

地球規模の水問題へのとりくみ

・地球温暖化 ・酸性雨 ・異常気象等による水危機 ・仮想水問題